



平成19年3月28日

各 位

会社名 ナブテスコ株式会社
 代表者名 取締役社長 松本 和幸
 (コード番号 6268 東証 第1部)
 問合せ先 総務・人事本部長 中村 秀一
 (TEL. 03-3578-7070)

平成20年3月期の業績見通しに関するお知らせ

平成19年度(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の連結および単体の業績見通しについて、本日の取締役会で決定いたしましたので、下記の通りお知らせします。

なお、平成19年3月期の決算発表につきましては、5月8日を予定しておりますが、今回記載の平成19年3月期の業績予想につきましては前回公表時の数値と同一でありますことを念のため申し添えます。

記

1. 平成20年3月期の業績見通し(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

『連結』

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成19年3月期業績予想(A)	159,000	16,000	16,500	9,300
平成20年3月期業績見通し(B)	165,000	17,500	18,000	10,000
増減額(B-A)	6,000	1,500	1,500	700
増減率(%)	3.8	9.4	9.1	7.5

(金額の単位:百万円)

『単体』

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成19年3月期業績予想(A)	119,000	12,000	12,500	7,500
平成20年3月期業績見通し(B)	124,000	12,700	13,500	9,000
増減額(B-A)	5,000	700	1,000	1,500
増減率(%)	4.2	5.8	8.0	20.0

(金額の単位:百万円)

2. 平成20年3月期中間期業績見通し(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

『連結』

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
平成18年9月中間期実績(A)	77,934	8,161	8,433	4,796
平成19年9月中間期業績見通し(B)	83,000	8,450	8,700	4,700
増減額(B-A)	5,066	289	267	△96
増減率(%)	6.5	3.5	3.2	△2.0

(金額の単位:百万円)

『単体』

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
平成18年9月中間期実績(A)	57,923	5,728	6,070	3,154
平成19年9月中間期業績見通し(B)	62,500	6,050	6,450	4,600
増減額(B-A)	4,577	322	380	1,446
増減率(%)	7.9	5.6	6.3	45.8

(金額の単位:百万円)

3. 業績見通しの状況

平成19年度は、国内の堅調な経済情勢に加え、北京オリンピックを控えた中国市場の活況等により、景気は順調に推移するものと予想されます。しかしながら、素材価格の高止まり、為替変動、金利の上昇傾向等の不透明要素があり、経済への影響が懸念されます。

このような状況の中、当社グループは、中期経営計画の最終年度(平成19年度)の目標達成に向けて、国内外の市場開拓、新商品の上市等を積極的に行う予定であります。また更なる収益力の強化を目指して最適生産体制の構築、生産性の改革、改善を行い、コストダウンに努めてまいります。

『連結』(比較は平成19年3月期予想との対比です。)

・「売上高」

民間航空機業界の回復、建設機械市場の好調、鉄道車両の国内外の新造車両及び更新需要等を背景に前年比60億円増加の1,650億円の見通しです。

・「営業利益」

売上高の増加を主因に前年比15億円増加の175億円の見通しです。

・「経常利益」

営業利益の増加と金融収支の改善により、前年比15億円増加の180億円の見通しです。

・「当期純利益」

経常利益の増加により、前年比7億円増加の100億円の見通しです。

『単体』

・「売上高」

連結と同様、民間航空機業界の回復、建設機械市場の好調、鉄道車両の国内外の新造車両及び更新需要等を背景に前年比50億円増加の1,240億円の見通しです。

・「営業利益」

売上高の増加を主因に前年比7億円増加の127億円の見通しです。

・「経常利益」

営業利益の増加と金融収支の改善等により、前年比10億円増加の135億円の見通しです。

・「当期純利益」

経常利益の増加により、前年比15億円増加の90億円の見通しです。

以 上

見通しに関する注意事項:

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

(参考情報) 通期連結情報のセグメント別見通し

(金額の単位: 百万円)

		平成19年3月期 業績予想(A)	平成20年3月期 業績見通し(B)	増減額 (B) - (A)	増減率 (%)
売上高	精密機器事業	29,200	31,000	1,800	6.2
	輸送用機器事業	44,600	46,000	1,400	3.1
	航空・油圧機器事業	49,100	53,000	3,900	7.9
	産業用機器事業	36,100	35,000	△1,100	△3.0
	合計	159,000	165,000	6,000	3.8
営業利益	精密機器事業	3,800	4,300	500	13.2
	輸送用機器事業	5,200	5,600	400	7.7
	航空・油圧機器事業	3,400	3,700	300	8.8
	産業用機器事業	3,600	3,900	300	8.3
	合計	16,000	17,500	1,500	9.4

セグメント別見通し

精密機器事業

産業用ロボットの主要ユーザーである自動車業界の設備投資が回復の傾向にあり、また工作機械向け精密減速機も好調な推移が見込まれ、増収増益となる見通しです。

輸送用機器事業

鉄道車両関連分野において、中国の在来線高速化プロジェクト向け売上の本格化及び国内鉄道各社の在来線車両の更新が堅調に推移すると見込まれ、増収増益となる見通しです。

航空・油圧機器事業

民間航空機業界が回復の傾向にあり、また国内外の建設機械も好調な推移が見込まれ、増収増益となる見通しです。

産業用機器事業

自動ドア関連分野は、シェアの拡大により売上は増加、食品用包装機械も回復が見込まれますが、海外子会社の売却等により、売上は減収となりますが、増益となる見通しです。